



北海道最西限の碑・北追岬（奥尻町）

# 道経連会報 No.281

## CONTENTS

巻頭言	1
2023年度国の施策および予算に関する要望活動	2
フード特区10年間の実績と提案	8
「ゼロカーボン北海道」の推進に向けた取り組み	17
道産木材利活用推進プロジェクトチーム提言書（概要）	27
駐日各国大使等との意見交換の実施	31
第48回定時総会・記念講演会	32
新入会員懇談会	68
常任理事会レポート	69
会員企業紹介	75
会員の異動	80
新会員企業紹介	85
グループ活動報告	89
北海道の経済動向	96
人事・労務相談日	98
道経連カレンダー	99
事務局人事	103
Face to Face	103
わがまち紹介（シリーズ51）	104



北海道経済連合会 常任理事

**箕輪 留以**

(株)日本政策投資銀行  
北海道支店長

## ～奥深い日本の魅力～

私は過去に四国(高松)に3年、九州(福岡)に2年、南九州(鹿児島)に2年、スタンフォード大学への派遣で米国に1年住んだ。どこも行ったことも住んだこともなく、地縁もない土地だった。

地方に住んでみて思ったのは日本の魅力の奥深さであった。

四国支店勤務時は高松市にある源平合戦の古戦場屋島に住んでいた。瀬戸内海の海と島、そこを通る船の風景はとてものどかで美しかった。四国四県をすべて回りたいと思い、車で道路地図を見ながら1番霊場から順に八十八ヶ所霊場を巡った。それぞれのお寺で御朱印をいただく時に度々ご住職から話しかけられた。当時は若者がお遍路をしていることが珍しかったらしく、何か悩みがあるのではないかと心配して声をかけてくださったのだ。霊場のご近所の方からお接

待(飲食物の施しなど)をしていただくこともあった。宿泊は川でキャンプをするのが定番であった。キャンプ場ではなく、清流と名高い仁淀川や四万十川でソロキャンプをした。地元の方々も川辺でバーベキューをしており、サワガニなどをお裾分けしてくれた。地域の方々の温かさを感じる霊場巡りであった。

九州支店勤務時は妻と一緒に車で旅することが多かった。水の都柳川、別府・由布院、くじゅう高原、阿蘇、伊万里・有田、雲仙・天草そして多くの温泉など大地のパワーを感じることも多かった。

南九州支店勤務時は、山、海、島を巡った。高千穂峰、開聞岳、桜島、奄美大島、加計呂麻島の他に、霧島温泉、指宿温泉。鹿児島市内の銭湯がみな温泉であることには驚いた。これほど身近に活火山があり、その恵みである温泉の豊かな地に住んだのは初めてだった。鹿児島で繰り返し訪れたのは奄美大島や加計呂麻島だ。とても素朴な島であり、美しい砂浜があり、観光客も当時はそれほど多くはなくプライベートビーチのようでとても気に入った。東京へ転勤後も子供を連れて毎年夏に訪れた。

1年前に北海道支店に赴任した。「北の国から」ファンである私は、北海道だけは学生時代から何度も旅しており、これまでの勤務地の中では最もよく知っている

土地だと思っていた。しかしこれは浅はかな考えであった。北海道では季節ごとにスケールの大きな美しい風景にたくさん出会えるのである。考えてみれば、北海道は四国の4.4倍、九州の2倍の面積があるので当然なのだろう。

これまでの勤務地で地元の方に聞くと、同じ四国地方に住んでいながら四万十川、仁淀川には行ったことがない、八十八ヶ所霊場巡りはしたことがない、九州に居ても天草、奄美大島、屋久島には行ったことがないという方が意外に多かった。

先日知床五湖を訪ねた際、ガイドの方から札幌から来る人は珍しいと言われた。長く住んでいると、いつでも行けるという思いもあるだろうし、身近すぎてその魅力に気づかないこともあるのかもしれない。

また、米国に1年住んでみて改めて気づいたのは、日本でいかに美味しい食事をリーズナブルな価格で食べることができていたかということであった。これも長く住んでいて気づけなかった日本の食事のありがたさである。

皆様も北海道のまだ訪れていない土地を訪ね、まだ見たことのない風景や文化、味わったことのないおいしい食事を堪能されて「北海道の魅力」を再認識されてみてはいかがだろうか。